

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

Q36RA 10-33

大臣官舎長	事務次長	典房	長
外務省	調査使	研究	審
監察人	在儀警	情	才
調企長	審企情	調	
領移長	参一二旅查移		
長	東二難	對	
長	参北西		
長	審北北保		
中南長	審一二		
長	審西洋	西東	
近ア長	審一二アア		
長	次 經国資漁	經国資	博
長	審総		
長	審海		
協長	審技開	技	理
長	参国二		
長	審条協規		
長	審企軍專		
長	参政經		
科審	科原		
長	審道内文	文	
長	参ブ外二		

総番号 R038514

主管

年 月 27日 15時 40分 中 国 発 重 中  
59年 03月 27日 16時 41分 本 省 着

外務大臣殿 鹿取大使

総理訪中 (コヨウホウ秘書記との会談)

第1386号 極秘 至急 (ゆう先処理) Q36RA

往電第1338号に關し

冒頭往電2. (6) に次のとおり追加願いたい。

1. 「……このようなかん境が出来ない限り、わが国が北鮮と接近することは難しい。」の後に「朝鮮停戦協定のように、中、米、南北朝鮮が入ることになれば、ソ連は口出し出来ないであろう。」を追加。

2. 「……中国が朝鮮半島の情勢のカギをにぎっている」の後に「(ここで、コ秘書記より、総理閣下の御見解は十分理解することが出来たが、日本側はおそらく北鮮に対する中国の影響力を過大評価しているものと思う旨の発言があつた。)」を追加。

(了)